

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	玉腰 宏之	福祉	H2201003
	③	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	桜小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0017		
	所在地	世田谷区世田谷2丁目4番15号		
	TEL	03-3420-5413		
事業所代表者氏名	事務局長 櫻井 秀人			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 24 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 30 日			
評価合議日	2025 年 9 月 30 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもの権利条約31条「休み、遊ぶ権利」 2)子どもが安心して楽しく・自由に遊べる環境のもとで生きる力と主体性を伸ばしひとりひとりの今の成育 子どもの成長と育ちを支える（運営方針） 3)元気に挨拶 4)友達を大切にしよう 5)いろいろなことにチャレンジしよう</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重する。 ・児童虐待等の子どもの心身に有害な影響を与える行為を禁止する。 ・国籍、信条又は社会的な身分による差別的な扱いを禁止する。 ・守秘義務を遵守する。 ・関係法令に基づき個人情報適切に取り扱い、プライバシーを保護する。 ・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築する。 ・放課後児童支援員等が相互に協力し、研鑽を積みながら、事業内容の向上に努める。 ・事業の社会的責任や公共性を自覚する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な心身を有し、豊かな人間性と倫理観を備え、児童福祉事業に熱意のある人材。子どもの権利について知識を有し、理解があること。児童福祉事業の理論及び実際について訓練を受けたことがあると望ましい。 ・常に自己研鑽に励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努められる人材。 ・子どもや保護者を取り巻くさまざまな状況に関心を持ち、育成支援に当たった課題等について建設的な意見交換を行うことにより、事業内容を向上させるように努められる人材。 ・世田谷区が目指す放課後児童健全育成事業を理解している人材。 ・職員も意見を出し話し合える職場。地域・学校と連携し見守られる環境作り。

調査対象 調査方法	登録児童全員を対象とした。 Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。
--	--

利用者総数 177

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	177	0	177
共通評価項目による調査の有効回答者数	49	0	49
利用者総数に対する回答者割合(%)	27.7	0.0	27.7

利用者調査全体のコメント

調査対象者177名のうち、49名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、42名が「大変満足、満足」、4名が「どちらともいえない」、3名が「不満、大変不満」と回答している。また、「毎日体育館で遊べるのが嬉しい」「ドッジボールやバスケットをもっとやりたい」「本やおもちゃをもっと増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	41	5	3	0
41名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「もっといろんな遊びをやってみたい」「工作が好き」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	34	5	0	10
34名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生は忙しそうだからあまり話ができない」「あまり話したことがない」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	34	11	2	2

34名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「おやつが一番楽しい」「友達と仲良くおいしく食べられている」「好きな時とあまり好きではない時がある」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	18	8	3	20
18名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」、20名が「非該当・無回答」と回答している。また、「イベントに参加していない」とのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	32	5	1	11
32名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。約束ごとについて職員から説明を受けている様子が見えがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	41	2	3	3
41名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「遊んだまま片付けていないことがある」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	38	4	2	5
38名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。職員の対応が丁寧であると受け止められている様子が見えがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	0	1	6
42名が「はい」、1名が「いいえ」と回答している。体調不良の際にも安心できる対応がなされている様子が見えがえる。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	3	1	7
38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「みんな優しいから大丈夫」「先生が気づかないと助けてもらえない」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	4	2	9
34名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「先生は話を聞いてくれるけど、いつも忙しそう」「先生によって対応が違った」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	18	5	0	26
18名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、26名が「非該当・無回答」と回答している。子どものプライバシーに配慮がなされている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	7	1	13
28名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「学習の時間は静かにしてほしい」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	5	4	30
10名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」、30名が「非該当・無回答」と回答している。また、「このような話は聞いたことがない」とのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	区の方針に基づいて子どもの遊ぶ権利を重視し、子どもの育成を支援している クラブでは、区の定める七つの目標のうち「子どもの権利条約」に基づく「遊ぶ権利」を特に重視している。子どもが「楽しい」と感じる活動は安全にも直結すると考え、夏休みには毎日2つの行事を企画するなど、子どもの意欲や興味を尊重した活動を展開している。このような環境により、自然とルールを守る意識が育ち、安心・安全な場が形成されている。また、意見表明や傾聴を通じて社会性を育むことも重視しており、これらが発揮されることで、地域住民やPTA、学校職員による多面的な見守りを安全基盤として位置づけている。	
	子どもや保護者にわかりやすくクラブの方針を示し、共通認識を得ている 課題検討委員会で作成したポスターを掲示し、理念を子どもにも分かりやすい言葉に置き換えて伝えている。子どもから質問があがった場合には、指導員も一緒に考えるなど、子どもと共有していく姿勢を大切にしている。また、子どもの権利条約の小学生版も用意されており、指導員への周知を徹底している。年間計画では3年間で達成可能な現実的な目標を設定し、保護者には配布資料や入所説明会、保護者会で共有している。さらに、行動目標「元気に挨拶」「友達」「チャレンジ」をポスターで示し、1、2年生の自立時期に合わせた支援に取り組んでいる。	
	地域との連携に向けて、関係機関や団体とのつながりを持っている クラブでは、学校と地域・福祉を結び役割を20年以上担ってきている。事務局長のもと、学校との連携を密に行い、子どもを中心とした協働が進んでいる。教育と福祉の立場の違いもあるが、子ども目線での合意形成を主眼として、実務分担を明確化することで業務効率も向上している。地域開放についても事務局長の現場理解に基づき柔軟に運営している。例えば、体育館などの年間利用計画を整理し、地域住民や団体が安心して利用できる環境を整えている。クラブが学校と地域をつなぐハブとなり、地域に大きく貢献している。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>課題意識をもって運営に取り組み、職員が一丸となり区の方針の実現に尽力している</p> <p>区の学童クラブでは、三つの「間」(時間・空間・仲間)のうち、特に「仲間＝専門性」の強化を今後の課題としている。現行の職員体制の課題として障害児支援の専門性の向上があり、専門人材の配置のために給与や体制の見直しが必要であると考えている。空間面では反響音や大人数による騒がしさへの対応が課題となっているが、職員間で遮音策の工夫を行っている。また、意見ボックスや子ども会議を設け、「やりたいこと」「ほしいもの」を可視化することで意見表明の機会を保障し、子ども中心の運営実現に向けた取り組みを進めている。</p> <p>利用児童数の増加などの状況の中で、今後の方向性を打ち出している</p> <p>学童クラブには、子どもが安心して日々の出来事を話せる場が求められている。しかし、児童数や業務の増加により、おやつ時間などのコミュニケーション機会が減少している。「食べること」に優先されがちで、対話をする余裕が減少している。大人数運営の中では、子どもが休息や自由な選択をしにくい場面もあり、家庭的な安心感の確保が課題となっている。今後は、子どもがその日の状態に応じて過ごし方を選べる環境を整え、迎え時の保護者との連携も強化するなど、「子ども中心」の運営を充実させていく方針としている。</p> <p>地域との連携強化を図りながら、公設学童クラブとしての発展を目指している</p>		

区では、今後6年間ほど子どもの総数は減少傾向にあるが、新BOPの登録児童数は横ばいで推移すると見込まれている。登録手続きは電子申請化され、安定した利用が続いている。地域には児童館や公園など充実した遊び場があり、安全で自由な遊び環境が整っているが、クラブと地域やPTAとの連携強化もさらに必要と考えている。今後は、地域と協働しながら、公設学童クラブの理念と運営の質を守り、さらなる発展を目指している。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

子どもが自分の意思をしっかりと伝えことができる環境を大切にしている

今年度の重点目標は、「元気に挨拶」「友達を大切に」「いろいろなことにチャレンジ」「自主性」「社会性」「意見表明(自己表現)」の6項目であり、とりわけ「意見表明」の力の育成を重視している。子どもは大人の反応を見て忖度し、意思表示できないことを避けるため、感情を言語化し相手に伝える練習を丁寧に行っている。ソーシャルスキルトレーニングの手法を活用し、感情整理や伝え方、謝罪・受け止め方など、社会的スキルを学ぶ機会を設けている。また、子どもの権利条約に基づき「意見を言ってよい」という権利意識を育む支援も行っている。

「子どもの権利条約」を業務で実践するため、職員の共通理解を図っている

職員に「子どもの権利条約」を必ず読むように伝えている。知識として終わらせず、日々のミーティングや子ども同士のやりとりで実践的に活かすことを促している。特に、子どもの情報を職員全員で共有し、質問に丁寧に答え、権利を守る姿勢を徹底している。研修では実践事例を取り上げた学習も行い、職員間で共通認識が持てるようにしている。また、職員会議で子どもに関する情報を共有することにより、支援の一貫性を保っている。家庭での出来事に関連して、子どものSOSをクラブで発見する例もあるなど、現場での気づきを支援に活かしている。

保護者からの要望への対応を図り、理解を得られるように努めている

寄せられる苦情は、主に子ども同士のトラブルに関するもので、内容や事実確認に関することが多い。子ども同士の関係性を踏まえ、保護者からの要望については、お互いの関係性について丁寧に説明し、保護者の理解が得られるよう努めている。学校に相談が入る場合には、必要に応じて学校と協働して解決を図っている。子どもの権利擁護に対する保護者の期待も高く、適切に対応できるように努めている。今後は、昼食・おやつ提供や延長対応に加え、さらなる要望にも対応していく方針としている。

4			カテゴリー4	
リスクマネジメント				
サブカテゴリー1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリー2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリー4の講評				
<p>災害時に専門性を活かし、地域との連携体制の中で役割を担うこととしている</p> <p>地域との連携では、連絡協議会がコロナ禍で中断されたものの、地域団体との体育館での話し合いや保護者会・個人面談を通じて継続している。町会の高齢化や後継者不足で従来の会議体は減少しているが、防災を軸とした地域での連携も進めている。小学校単位の避難所運営会議体を中心に、学校教職員やPTA、地域住民と協働する体制が整いつつあり、災害時には児童館や学童クラブにも子どもへの支援の拠点としての役割が期待されている。現在は震度5弱以上の地震発生時に招集され、児童の安全確保を最優先とする体制が整備されている。</p> <p>個人情報の取り扱いを厳格に行い、子どものネットリテラシーにも注意を払っている</p> <p>区のリスクマネジメントは、災害対応に加え感染症や情報管理など幅広い領域を含んでいる。感染症リスクは落ち着きつつあるが、今後は個人情報など情報管理の重要性が増すと考えている。区では厳格な管理体制が敷かれており、職員の理解促進と仕組み化により、安全かつ効率的な運用が行われている。クラブでは申請書類や個人情報の取り扱い体制を整備し、職員への周知を徹底している。また、子どものデジタル機器利用に伴うリスクにはネットリテラシー教育で対応し、SNSによる写真共有など具体的事例を通して注意喚起を行っている。</p> <p>長期休み時の独自の事業継続計画の作成に向けて検討が図られている</p> <p>区の定める事業継続計画(BCP)では、学校と一体となった災害発生時の再開手順や職員の動きを明確に示しており、教育委員会作成のマニュアルに準拠して整備されている。クラブでは教育と福祉サービスが連携する仕組みとなっていることから、クラブの安全対策マニュアルと学校の危機管理マニュアルのすり合わせが課題となっている。今後は教育委員会と調整しつつ、これらの内容を明文化・運用していく方針である。これらを踏まえ、学校の長期休み時などを含めたBCPの見直し・再提示に向けた取り組みを進めている。</p>				

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

人材確保を始めとする諸課題について、区と連携しながら必要な取り組みを進めている

現在の職員体制は、学童クラブの登録人数を基準とした人員配置が基準となっている。そのため新BOPという放課後子供教室と一体となった運営においては、子どもに十分な対応が難しい状況が起こることも懸念されている。また、福祉業界全体の人員不足の流れを受け、今後は人材確保にさらなる取り組みの必要性が問われると予測している。また、障害や発達における専門性や経験を持った人材の確保なども課題として捉えている。こうした諸課題について、区とも連携しながら必要な取り組みを進めている。

多様な子どもへの対応として、職員の専門性を高める取り組みを始めている

今年度より、福祉専門職職員と元児童館長が各クラブを巡回し、要配慮児への対応についてOJT形式で助言するセッションが設置され、個別支援の充実が図られている。従来年1回だった巡回相談も、申請ベースで柔軟に対応可能となった。育成委員会では子どもの状態を数値化し、翌年度の加配職員数に反映させる仕組みが整備され、支援体制の計画性も向上している。このように、学童クラブの多機能化に向けて、利便性と質の両立を目指した工夫が進められている。

チームワークと働きやすさの両立を図り、子どもを中心とした運営が行われている

職員の働きやすさ確保に配慮し、休暇は相互理解のもと柔軟に取得できる体制を整えている。シフト作成は1か月前に希望を集約し、補充配置も含め効率的に行っている。夏休み期間中は毎日2つのイベントを実施し、職員同士が互いにバックアップし合う文化が根付き、チームワークを維持している。事務局長はファンリテーション型マネジメントを実践し、必要な時に助言を行う一方、職員の自主性も尊重している。「子どもを中心に」を運営方針に掲げ、職員一丸となった運営を実践している。

7 カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 年間の行事を通して、子どもが自ら意見表明ができるようにする	
【取り組み】 行事の年間計画を策定し、見直しを図ることで様々な子どものニーズに対応できるよう行事を増やした	
【取り組みの結果】 子どもが自ら行事への参加の意思表示をする機会が増えている	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 職員全体で年間目標や年間計画、行事計画等を年度初めに策定している。年間目標は「元気に挨拶」「友達を大切に」「いろいろなことにチャレンジ」の三本柱を継続して掲げており、職員が主体的にイベントを企画・運営している。子どもたちは行事を心待ちにしており、「これがあるから来た」と自ら理由を語るようになり、主体的な参加姿勢が育っている。さらに、家庭でも自分の希望を伝える機会が増え、意思表示の力が伸びている。集団遊びや手作り活動など多彩な取り組みが、子どもの自己表現と成長を後押ししている。	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>【課題・目標】 3年生以降の放課後の過ごしを自発的にかつ安全なものとするよう、地域とのかかわりを意識してイベント等の運営に参加する</p> <p>【取り組み】 学校と地域との連携を念頭に、新BOPとしての役割を子どもと一緒に取り組んだ</p> <p>【取り組みの結果】 行事の様子を保護者へ配信し、取り組みの理解を得るとともに、学校が主催する「児童理解の会」に参加し、さらなる子どもの状況を深く知る機会を得ることができている。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>3年生以降の子どもたちが、鍵の管理や放課後の過ごし方など、自立に関わるテーマに沿って生活できるよう、「新BOP」や児童館のみに依存せず、自ら放課後を創り出す力を育むことを方針の一つとして掲げている。この実現には、地域社会の安全性と住民との関係性が重要な要素であると考え、学校と地域の連携の中に新BOPも積極的に参画している。具体的には、地域の大きな行事に新BOPとして参加し、地域住民との交流を深める実践を行っている。また、これらの取り組みを保護者へ情報提供し理解を得るとともに、学校との連携をさらに強化することで、地域社会における新BOPの存在とその役割がより明確に認識されるようになっていく。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
1	サブカテゴリ1	
	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	
◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
<p>クラブの情報を区公式ホームページや募集案内で発信している</p> <p>クラブに関する情報は、世田谷区公式ホームページや「新BOP学童クラブ児童募集案内」などで発信している。ホームページには、(1)概要、(2)対象児童、(3)入会基準、(4)申請方法、(5)利用料、(6)施設一覧、(7)Q&A、等を掲載し、保護者が必要な情報を得やすいよう工夫している。また、小学校で実施される就学前健診(10月)の際には募集案内を配付し、検診後の学童クラブ見学を案内している。その際には、学童クラブと放課後子供教室「BOP」との違いについても説明し、利用希望者の理解を深めている。</p> <p>利用希望者の特性に応じた情報を公式ホームページなどで発信している</p> <p>世田谷区公式ホームページでは、「新BOP学童クラブ児童募集案内」をダウンロードできるようにしている他、入会受付期間、申請方法、対象児童の要件、概要説明などを掲載し、利用希望者がウェブ上ですぐに情報を得られるようにもしている。外国籍の保護者向けには、英語版申込書や翻訳機の活用を検討し、特性に応じた受け入れ態勢も記載している。また、保育園へのポスター掲示や児童館への案内設置を行い、幅広く周知している。さらに、児童課との情報交換や館長会を通じて学童クラブの意見を集約し、情報共有の仕組みを整えている。</p> <p>見学を随時受け付け、安心して過ごせる場であることを丁寧に説明している</p> <p>クラブの見学は年間を通じて随時受け付けており、電話や直接の来所で申し込むことができる。時間帯も、保護者の都合に合わせて柔軟に対応している。案内は常勤職員などが対応し、まずは見学したい対象が学童なのかBOPなのかを尋ねている。その上で施設の様子や一日の流れ、利用方法、おやつ提供、BOPとの違いなどを丁寧に説明している。見学者には、子どもが自立に向けて安心して友だちと関わられる場であることを伝え、保護者との連携体制についても案内している。質問にも丁寧に答えているので、30分程度の時間をかけることもある。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入会説明会や個別面談では丁寧に説明し、保護者の理解と同意を得ている 毎年度3月に入会説明会や個別面談を通じて、「桜小新BOP学童クラブ入会のご案内」しおりに沿って保護者に丁寧な説明をしている。クラブでの過ごし方や利用料、免除制度、連絡方法などを伝え、生活の流れを具体的に理解してもらっている。配慮が必要な子どもについては、「児童票」や「アレルギー調査票」により特性や状況を把握し、必要に応じて小学校とも情報共有を行う。写真や情報開示については保護者の同意を確認し、不同意の場合は職員間で周知している。こうした丁寧な対応により、保護者が安心して利用を開始できるよう努めている。		
子どもの個別事情を把握し、安心して新しい生活に慣れられるよう配慮している クラブでは、入会申請書や「児童票」、「食物アレルギー調査票」などをもとに子どもの個別事情や要望を把握している。保護者とは個別面談を行い、得られた情報を記録し、職員間で共有しながら支援に活かしている。必要に応じて保護者の同意を得た上で、関係機関とも共有している。4月1日の初登所日には、現地周辺での道案内も行っている。登所後はホールに集まってもらい、一日の流れを説明した後、その場で遊具やゲームを使って遊んでもらい、ゆっくりと慣れてもらえるようにしている。5月には1年生歓迎会も開催し、上級生との交流も深めている。		
特別な配慮が必要な子どもに環境を整え、退会後も不安がないよう支援している クラブでは、発達面や健康面で特別な配慮を必要とする子どもを対象に、入会前に保護者と個別面談を行い、「児童票」や生活管理票をもとに支援内容を確認している。特性に応じてクールダウンスペースを設けるなど環境を整え、安心して遊べるよう配慮している。3年生時の個人面談では、卒会後のことも伝え、BOP登録をすることで引き続き同じ場で遊べることを伝えている。また、3月に開く保護者会、さらには追加で行う個人面談でも卒会後の過ごし方について説明し、4年生進級時の不安を持つ保護者の思いに丁寧に応えている。		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10/10

評価項目1
 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2
 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

年間の育成支援目標を全職員で策定し、子どもの姿を捉えて支援計画を実践している
 クラブでは、年間の育成支援目標を立て「桜小新BOP年間計画」に盛り込み、子どもが主体的に過ごせる居場所作りを目指している。目標は年度末のロングミーティングで全職員が話し合って策定し、年度始めには新規職員を交えて確認している。また、年間目標に加え、学年や時期ごとの課題に応じた月間目標を立て、成長に合わせて見直している。配慮を必要とする子どもについては、「児童票」や「アレルギー調査票」をもとに保護者や学校と面談し、情報共有している。さらに、保護者会やお知らせを通じて支援計画を説明し、理解を得ている。

子どもに関する情報や支援内容を職員間で共有し、記録を徹底している
 クラブでは、子どもの様子や支援内容を職員間で共有し、記録を徹底している。毎日のミーティングでは、遊びや生活の様子、トラブルや気になる事項を各職員が報告しあい、それを書記がノートに細かく記録している。月1回のロングミーティングでは、振り返りに加えて支援内容の見直しに取り組んでいる。ミーティングノートに加えて子どもの状況のみを記載する別のノートも作成している。この2冊を職員は随時参照し、非番時の出来事も確認できるようにしている。定期開催のミーティングと記録ノートの活用により、情報共有及び共通理解を図っている。

保護者の事情に合わせた支援を行い、交流や情報発信に努めている
 クラブでは、保護者の就労状況や家庭の事情を電話、個別面談、アンケートを通じて把握し、必要に応じて帰宅時間や利用時間の延長など、柔軟に対応している。長期休暇中の「デリバリー弁当」についても案内し、安心して就労できるよう支えている。保護者会は年3回実施し、その中で少人数に分かれて自己紹介や子どもの様子、気になっていること等を話せる時間を設けて、保護者同士のつながりを促進している。また、子どものその日の様子はお迎えに来た保護者にはその場で伝え、お迎えのない保護者には直接電話するなど、日常的に情報発信に努めている。

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している 〇非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している 〇非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>個人情報の保護を徹底し、子どもの羞恥心に配慮した対応を図っている</p> <p>特別支援学校の教員などの専門家がクラブを訪問し、「児童票」が提出されている子どもの様子を観察し、助言する「巡回訪問」制度がある。保護者の事前同意を得た子どもを対象にして実施している。巡回訪問以外で子どもの情報を提供するケースはほぼないが、仮にあった場合でも事前同意のある保護者の子どもに限っている。また、低学年では、排泄に失敗する子どももいるが、本人から申し出があった場合、職員が気付いた場合のいずれであってもそれとなくこっそりとロッカー室に誘導し、他の子どもに知られないよう着替えるなど配慮している。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重し、信頼関係を築きながら人権に配慮した関わりを行っている</p> <p>職員は、子どもを一人の人間として尊重し、意見や感情に寄り添った関わりを心がけている。子どもが安心して思いや悩みを話せる環境づくりに努め、肯定的な言葉かけや公平な対応を徹底している。また、発達段階や個々の特性に応じた支援を提供できるよう、職員ミーティングの場で日々話し合いを重ねている。さらに、保護者との会話や面談を通じて価値観や生活習慣を理解し、宗教や文化的背景の違いにも配慮した対応を行っている。こうした取り組みを通じて、子どもや保護者との信頼関係を築き、安心して過ごせる環境づくりに努めている。</p> <p>子ども同士のトラブル解決では双方の言い分を丁寧に聞き、公平に対応している</p> <p>子どもは、本人に悪気がなくても、言い方が少しきつかったり、調子に乗ってふざけていたり、といったきっかけから他の子どもとトラブルになることも多い。そうしたトラブルに気づいたとき、職員は、まずは双方の子どもを離して落ち着かせるとともに、それぞれの言い分をしっかりと聞いている。子どもの言い分を丁寧に聞くだけでも、子どもは高ぶった感情を静められることが多い。職員は、日々起こる子ども同士のトラブルに対し、公平に双方の言い分を聞くという対応を取ることで子どもたちが落ち着きを取り戻し、再び仲良く遊べるよう図っている。</p>	

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリー6の講評

各種マニュアルを整備し、共有することで標準化を図り、必要時に確認している
 クラブの運営に必要なマニュアルは、区が作成したものを中心に活用している。運営方針や安全対策などのマニュアルはファイルにまとめて保管し、職員が業務中に迷ったときにはすぐに確認できるようにしている。新しく入った職員にも周知し、同じ対応ができるようミーティングで共有している。特に、事故や災害時の対応など緊急性の高い内容は、掲示や紙で配付して、すぐに行動できるよう工夫している。また、改訂や変更があったときにはすぐに差し替えを行い、全員に知らせることで、業務を一定の水準で行い、安全な運営につなげている。

サービスの基本事項を確認し、業務の一定の水準化に取り組んでいる
 クラブでのサービスの基本事項や手順は、区が定めた「新BOP運営基準」や「運営方針」に沿って進めている。職員はチェックリストを使い、定期的に振り返りをしながら内容を確認し、業務の標準化に努めている。区から改定や変更があればすぐに差し替えを行い、全員に伝えている。年度末には子どもの様子や保護者の意見も取り入れながら運営内容を見直し、改善につなげている。さらに、新しく入った職員にはオリエンテーションを行い、接遇や言葉遣いなど基本的な対応を学んでもらうことで、誰もが同じ水準で仕事ができるようにしている。

保護者や職員の意見を取り入れ、改善を図りつつサービスの質の向上に取り組んでいる
 クラブでは、保護者からの要望を受けて、学校給食がない日にはデリバリー弁当を導入し、家庭の負担を減らしている。委託業者選定においても保護者の意見を尊重し、柔軟に対応している。また、職員から出された意見や提案は、日々の業務やミーティングを通して取り入れ、環境づくりや運営方法の改善につなげている。さらに、職員一人ひとりがチェックリストを活用して業務を振り返り、子どもの最善の利益を考えた行動につなげている。こうした取り組みを重ねることで、運営がよりスムーズになり、サービスの質も少しずつ向上している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4																
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 29/29															
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目1の講評</p> <p>子どもたちの発達段階や生活背景を踏まえた支援が丁寧に行われている</p> <p>クラブでは、子どもたちの発達段階や生活背景を踏まえた支援が丁寧に行われている。入会前には児童台帳を通じて事前に様子を確認し、入会説明会の終了後は、必要に応じて保護者との個別相談にも応じている。特に、配慮が必要な子どもについては、保育園や学校からの情報も活用し、職員同士で育成状況を共有しながら支援の方向性を確認している。また、行事やイベントも子どもの成長に合わせて工夫されており、日々の活動の中で一人ひとりに寄り添っている。こうした関わりの積み重ねが、安心して過ごせる環境づくりにつながっている。</p> <p>イベントでは、互いを認め合いながら子どもが無理なく参加できるように配慮されている</p> <p>子どもたちへの大切な話は、登室後やおやつ前に全員で共有する時間を設けることで、みんなが同じ気持ちで過ごせるよう工夫されている。また、「放課後事業育成」のポスターの掲示と内容の説明を通じて、子どもたちにも育成の考え方が伝えられている。イベントでは、目標を職員間で共有し、子どもが無理なく参加できるように配慮されており、互いを認め合いながら協力する関係づくりが自然に育まれている。また現在、外国籍の子どもの利用はないが、今後利用が合った場合には適切に対応できるよう備えている。</p> <p>トラブルが起きた際には、近くにいる職員がすぐに対応し、子どもの話に耳を傾けている</p> <p>トラブルが起きた際には、近くにいる職員がすぐに対応し、子どもの話に耳を傾けて解決を図っている。その後のミーティングで情報を共有する流れもあり、職員間の連携が図られている。ただし、記録の方法にはばらつきがあるため、聞き取りシート等を導入することにより、より丁寧な振り返りが可能になると考えられる。今後の検討に期待したい。また、保護者への連絡は、当日、解決できなかった場合や、子どもが気持ちの整理がつかない場合など、状況に応じて行われている。集団生活の中で、子どもたちが安心して気持ちを表現できるように努めている。</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当														
<p>2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目2の講評</p> <p>自分らしく過ごせるよう、年齢や発達段階に応じた遊びの環境づくりを工夫している</p> <p>クラブでは、子どもたちが自分らしく過ごせるよう、年齢や発達段階に応じた遊びの環境づくりが工夫されている。工作活動では「ちぎり絵」や「つまみ細工」に段階的な難易度を設け、達成感を味わえるよう配慮されており、子ども自身が成長を実感し、喜びを感じる姿が見られる。また、ドッジボールなどの集団遊びでは、学年差や得意・不得意に配慮したルール設定がなされ、初心者でも安心して参加できるよう工夫されており、子どもの自主性を引き出しながら、個々の力を伸ばす環境づくりを支えている。</p> <p>子どもたちが集団の中で主体的に関われるような工夫が随所に見られる</p> <p>日々の活動では、子どもたちが集団の中で主体的に関われるような工夫が随所に見られる。イベントでは、上級生が下級生に教える場面を設け、異年齢の交流が自然に生まれている。集団遊びは毎日行われており、ルールの難易度を段階的に調整することで、初心者も安心して参加できるよう配慮されている。また、子どもの意見をアンケートや会話から丁寧に拾い上げ、結果を壁に掲示することで、子どもたちの声が可視化され、関わりへの意欲を高めている。一方で、暑さや施設の制約により遊びの選択肢が限られることもあるため、改善に期待したい。</p> <p>子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、丁寧な声かけが行われている</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当														

クラブでは、日常の中で子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、丁寧な声かけが行われている。おやつや帰りの準備、手洗い、ハンカチの所持など、生活の節目に応じた習慣づけが意識されており、職員がこまめに促すことで自然な定着が図られている。また、自立に向けた取り組みとして、必要な行動を掲示したり、日々の中で繰り返し伝える工夫も見られる。こうした支援は、子どもたちが安心して生活を送る土台となり、将来的な自立にもつながる重要な要素として機能している。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>児童の興味・関心を引き出すため、ジャンルを問わず多様なイベントを毎月実施している</p> <p>クラブでは、児童の興味・関心を引き出すため、ジャンルを問わず多様なイベントを毎月実施している。学校の授業時間に配慮し、参加しやすい曜日・時間帯に設定されている点も工夫の一つである。工作イベント「フラワーバスケット」では、学年ごとに難度を調整し、男女問わず幅広い参加が見られている。「野球」「ドッジボール」などのスポーツイベントも人気が高く、毎回30～50人が参加している。子どもが自発的に活動へ関わる姿勢を育む一方、参加人数の増加に伴い使用できる場所も含めて、今後は内容や運営方法のさらなる工夫が求められる。</p> <p>子どもの意見を取り入れた「夏休み児童企画」があり、体育館で「縁日」を開催している</p> <p>イベント企画においては、職員が項目を提示した上で、子どもの意見を積極的に取り入れ、内容の幅を広げている。特に夏休みには、「夏休み児童企画」として、アンケートや話し合いを通じて子どもたちと共に企画した縁日を体育館で実施している。低学年の子どもも「お店屋さん」「お客さん」役を体験し、ゲームやアクセサリ作りなど希望に基づく4つのブースが設けられた。独自通貨「BOP通貨」の導入など、子どもが主体的に楽しめる工夫も随所に見られている。準備段階から職員と子どもが協働することで、達成感と自信を育む機会となっている。</p> <p>行事の実施にあたっては、「新BOPだより」などにより保護者への周知を行っている</p> <p>行事の実施にあたっては、保護者への周知を丁寧に行っている。「新BOPだより」などを通じて、手作り系・スポーツ系・音楽系のイベントの内容を共有している。冬季の毛糸遊びでは、子どもが安心して毛糸遊びができるように、各家庭に毛糸の準備を依頼するなど、保護者の協力を得ている。家庭とクラブの連携を促進し、子どもが安心して活動に取り組める環境づくりに寄与している。今後も、保護者の理解を深める情報発信や協力依頼の方法を工夫することで、より一層の協働体制の構築が期待される。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
◎あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>登所後に子どもたちがその日のプログラムを確認し、自分の好きな遊び場所を選んでいる</p> <p>クラブでは、登所後に子どもたちが、その日のプログラムを確認し、自分の好きな遊びへ向かう姿が見られる。登室時の出欠入力も順番を守って穏やかに行き、「ただいま」「おかえり」の挨拶が交わされるなど、穏やかな日常の中に安心感が育まれている。友だちとの遊びを楽しむに通う子も多く、3年生は同学年の在籍が多いが、縦割りの中でも活発に交流している。こうした環境は、子どもが自然と通い続けたいくなる雰囲気を生み出しており、職員の温かな関わりがその土台となっている。</p> <p>生活時間にメリハリを持たせ、子どもが見通しを持って過ごせるよう工夫されている</p> <p>クラブでは、生活時間にメリハリを持たせ、子どもが見通しを持って過ごせるよう工夫されている。6時間目の授業が終わるまでは、基本的にBOP室で過ごし、読書や宿題、静かな遊びなどを行っている。人数の多い時は、隣の多目的室を利用している。夕方には宿題や読書の時間を設け、落ち着いて帰宅できるよう支援している。室内環境では、個別ロッカーや動線の確保、壁面装飾を通じて楽しい雰囲気づくりが行われている。一方で、在籍人数に対して空間が限られているため、音量調整のルール共有や収納スペースの見直しなど、今後の改善が期待される。</p> <p>子ども同士の自然な交流を促進し、誰もが安心して活動に参加できる環境にしている</p> <p>クラブでは、世田谷区の運営方針に基づき「新・放課後子ども総合プラン」に沿った取り組みを実施している。放課後子供教室との連携においては、活動中に「BOP児」「学童児」といった区分けをせず、すべての子どもを対象にスタッフが見守る体制が整えられている。このような一体型の運営は、子ども同士の自然な交流を促進し、誰もが安心して活動に参加できる環境づくりに寄与している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが日々安心して過ごせるよう、学校との連携を大切にしている</p> <p>子どもが日々の生活を安心して過ごせるよう、学校との連携を大切にしている。新BOP連絡協議会を開催し、学校や学校関係諸団体、地域の関係団体、児童館長が出席して、情報交換を行っている。活動場所として学校の多目的室や体育館、校庭を活用しており、学校の状況に応じて使用場所が変更されるため、日々連絡を取り合い、柔軟に対応している。また、定期的な職員会議に週一回実施し、子どもの様子や支援の方向性について情報を共有している。日常的な連携が、子どもたちの安定した生活の土台となっている。</p> <p>学校の指導と連携した対応を進めていく意向が示されている</p> <p>現在、不登校の児童はいないが、登校に不安を感じる兆しが見られる場合には、学校と連携しながら早期に対応できるよう心がけている。しかし、スマイルルームに通う子どもについては、学校の先生との情報共有が十分に行えていない現状がある。子どもが混乱しないよう、今後は学校の指導と連携した対応を進めていくことを目指している。子どもの気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせるような支援体制を整えることが、今後の課題であり、連携の充実が期待される。</p> <p>他施設への育成訪問を通じて、現場の工夫や支援のあり方を学ぶ機会を設けている</p> <p>発達面や家庭環境に配慮が必要な子どもへの支援においては、区の巡回相談を活用し、専門職による観察や助言を受けながら対応が進められている。今年度からは児童課にも専門職が配置され、各新BOPへの巡回相談がより身近な支援として機能し始めている。また、他施設への育成訪問を通じて、現場の工夫や支援の在り方を学ぶ機会も設けられており、実践的な学びが支援の質の向上につながっている。今後も関係機関との連携を深めながら、きめ細やかな支援につなげていくことが期待される。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りには配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつ時間を子どもたちが楽しみにできるよう、雰囲気づくりを工夫している</p> <p>クラブでは、おやつ時間を子どもたちが楽しみにできるよう、雰囲気づくりに工夫がされている。育成室の隣にある多目的室を活用し、学年や帰宅時間に応じて順番に声かけを行うことで、落ち着いた流れが保たれている。麦茶の提供による水分補給や、マナー指導も丁寧に行われており、友だちと一緒に楽しく過ごす時間として定着している。多目的室は学校行事で使用できない日がほとんどなく、安定した運営が可能となっている点も評価できる。こうした配慮が、子どもたちの安心感と楽しさにつながっている。</p> <p>校庭遊びや降所時間を考慮しながら、学年順に声かけし、おやつを提供している</p> <p>おやつ提供にあたっては、子どもの来所時間や帰宅予定、校庭遊びとの兼ね合いを考慮し、柔軟に時間調整している。おやつは区の契約業者から週1回配達され、事前に届くメニュー表をもとに一週間の献立を計画している。乳製品や調理パン、果物なども含まれ、子どもたちが楽しみにしている。量や種類にも工夫があり、育成の流れに自然に組み込まれている。おやつ時間は、子どもの休憩時間でもあり、子どもの生活リズムに寄り添いながら、無理なく楽しく過ごせる時間を支えている。なお、土曜日は、おやつ提供がないため、各自持参している。</p> <p>食物アレルギーへの対応として、誤食防止に向けた体制が整えられている</p> <p>食物アレルギーへの対応は、マニュアルに基づき、細やかに実施されている。アレルギー児童には個別に対応したおやつを用意し、プラケースに保存している。保護者による月ごとの確認と、常勤職員による再確認のダブルチェック体制が整えられている。提供時には他の子どもと区別し、事務室で決められた食器を使用して飲食している。職員が見守る中で、安心しておやつを楽しめる環境が保たれている。誤食防止の徹底と、子ども一人ひとりへの配慮が行き届いている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>職員が子どもの顔色や体調の変化を確認し、必要に応じて保護者へ連絡している</p> <p>子どもたちが毎日を元気に過ごせるよう、登所時やおやつの時間、帰りの前など、職員がさりげなく体調や表情を見守り、声をかけている。体調不良やけががあった際は、連絡アプリや電話で保護者へ連絡している。子ども自身にも伝えるように促すなど、自立を支える工夫も見られる。遊具の使い方や活動前の注意喚起、職員間での情報共有も日常的に行われており、安全への意識づけが自然に根づいている。こうした日々の積み重ねが、子どもたちの健康や安全への関心を育てる土台となっている。</p> <p>けがや体調不良への対応は、初期対応の徹底と記録の共有で再発防止に活かされている</p> <p>けがや体調不良への対応は、初期対応を丁寧に行い、記録を共有することで、次に活かす姿勢が大切にされている。遊具の点検や動線への配慮も行き届いており、熱中症予防の観点からも、遊びに夢中になる子どもたちに対し、一定時間ごとに声かけを行うなど、細やかな見守りが実践されている。短時間勤務の職員にも申し送りを行い、全体で子どもを見守る体制が整っている。細やかな気配りが、子どもたちにとって安心できる環境づくりにつながっており、日々の遊びや生活を支える大きな力となっている。</p> <p>アレルギーなど医療的な配慮が必要な子どもについては、入会前に保護者と面談している</p> <p>アレルギーなど医療的な配慮が必要な子どもについては、入会前の面談で保護者から丁寧に聞き取りを行い、学校の管理表と照らし合わせて確認している。エビペン保持者には、決められたロッカーでの保管を徹底し体制が整えられている。嘔吐時の処理方法についても、二次感染を防ぐための手順を職員に指導し、保護者にも園入りの入会時のしおりでわかりやすく説明されている。手洗い場の清掃や鏡の設置など、衛生的で子どもが自分の体調や身だしなみに気づける環境づくりも丁寧に整えられている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者に子どもの様子を丁寧に伝え、相談しやすい信頼関係づくりに努めている</p> <p>クラブでは、保護者のお迎えの際の伝達、個別面談、電話での報告等を通じて、子どもの様子や成長を丁寧に伝え、安心して預けられるよう信頼関係の構築に努めている。保護者から臨時的相談申し出があった場合は、電話での会話はもとより、来所してもらった個別面談も随時対応している。「桜小新BOPだより」ではイベント予定を発信し、子どもの成長やクラブの取り組みを共有している。また、保護者会では、日常活動や特別イベント活動の報告や交流の機会を設け、保護者同士のつながりと職員と保護者との共通理解促進にも取り組んでいる。</p> <p>登退所管理システムを活用し、安全確保のため出欠管理を徹底している</p> <p>クラブでは、登退所管理システムを活用し、子どもの出欠や入退出時間を管理している。予定があるにもかかわらず来所していない場合や連絡がない場合には、保護者に電話連絡を行い、必要に応じて小学校への確認や通学路の搜索まで対応し、安全確保を徹底している。登退所管理システムに未入力や変更がある際も、必ず電話で確認を行い、緊急時にはメールや配信などを活用して迅速に情報を伝えている。職員間でも連携を図り、全ての子どもが確実に安全に過ごせるよう努めている。</p> <p>保護者会では、保護者同士で交流できる場も設けて共通理解を図っている</p> <p>5月に開催した第1回保護者会では、まずは児童館長、事務局長が挨拶を行い、続けて(1)職員紹介、(2)学童での生活や遊び、(3)年間行事、(4)登退所管理システム、等々について説明を行った。質疑応答の後に、保護者を少人数のグループに分け、そこには職員も加わる形でグループ懇談の場を設けた。話しやすいように、テーマも設けたが、自己紹介、テーマについての意見を話すうちに話も盛り上がり、各グループで保護者同士が笑顔で交流する様子が伺われた。このような取組みにより保護者がお互いに話せ、交流できるよう工夫している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域行事の情報を積極的に提供し、参加を通じてつながりを深めている</p> <p>クラブでは、地域で開催される子ども向けイベントや文化的な催しの案内を積極的に掲示し、子どもたちや保護者へ情報提供を行っている。地元の町内会によるお祭りや、世田谷区中央図書館のプラネタリウムなど、多様なイベントの紹介を通じて、地域社会との関わりを広げている。特に桜小学校PTA主催の「さくらっ子フェスタ」には、職員が子どもを引率して参加し、学校や地域住民との交流を深めている。現在はコロナ禍以前に行われていた地域ボランティアによる芸術披露等は再開していないが、クラブとしては今後の復活を前向きに検討している。</p> <p>児童館と連携し、退会後も子どもの活動の場を広げる取り組みを進めている</p> <p>クラブは、世田谷区立上町児童館と深い関わりを持ち、日常的に連携を図っている。児童館長が事業所のミーティングに参加することもあり、繁忙期には職員同士で助け合うなど協力関係が築かれている。その中で、児童館が実施する小学生向けイベントについては、子どもや保護者に日頃から紹介し、積極的な参加を呼びかけている。特に3年生は翌年度にクラブを卒会するので、児童館を主要な遊び場の一つとして活用することを勧めている。秋に行われる児童館まつりでは、クラブの職員も応援に入り、子どもたちが楽しく参加できるよう見守っている。</p> <p>地域資源や児童館を活用し、子どもの生活と体験の幅を広げている</p> <p>クラブでは、地域や児童館と連携し、子どもが日常生活の中で多様な経験を積めるよう取り組んでいる。地域のお祭りやイベントに参加することは、子どもが地域社会の一員としての意識を育む大切な機会となっている。また、児童館のイベントや日常利用を通じて、退会後も子どもたちが安心して遊べる居場所を確保できるよう支援している。これにより、在籍中から自然に退会後の生活へ移行できるよう環境を整えている。クラブはこうした活動を通じて今後も地域資源を積極的に取り入れ、子どもの活動の幅を広げていきたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル①	学校や地域の関係者との連携に積極的に取り組み、相互理解を深めている	
内容①	<p>コロナ禍の影響により地域連絡協議会の中止が継続している中でも、クラブでは、体育館を利用する学校関係者や地域住民との協議会、また遊び場開放に関する会議等を通じて、地域との連携を積極的に図っている。これにより、地域住民との交流が深まるとともに、学校教員に対しても学童クラブを含む新BOPとしての活動への理解が進み、相互の関係性が強化されている。これらの取り組みは、クラブの運営において極めて重要なものであり、学校・地域双方との相互理解が、子どもたちの地域生活における安全と安心の確保につながっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	ホワイトボードの記入や掲示物を工夫し、子どもにわかりやすく情報提供している	
内容②	<p>掲示物を通じた情報提供に力を入れており、子どもたちが自分で確認しやすい工夫が随所に見られる。掲示は子どもの目線に合わせて配置され、イベントポスターには吹き出しを添えるなど、興味を引く工夫がされている。掲示コーナーには児童館や新BOPのおたよりが並び、アンケート結果も付箋でわかりやすく示されている。登室後に3年生が結果を見て、友だちと話し合う姿も印象的である。ホワイトボードには、今日のプログラムと使用時間が○×方式で示され、子どもたちが自分で予定を確認しながら過ごせる環境が整っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	年3回開催する保護者会を通して保護者理解が深まるように努めている	
内容③	<p>クラブでは、保護者会を年に3回(春、夏、年度末)開催している。会では、(1)職員紹介、(2)年間計画、(3)登退所管理システム、(4)学童での生活、遊び、決まり、持ち物等、(5)個人面談の案内、等々、その都度、時宜の議題を並べて丁寧に説明し、質疑応答も行っている。こうしたクラブからの説明に加えて、保護者同士の交流も目指している。少人数グループに分け、そこには職員も加わっている。テーマを設けて自由に話し合ってもらうことで、保護者同士の交流、保護者と職員との間での共通理解、情報共有の機会を提供している。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもにわかりやすく目標を提示し、達成に向けて職員がその手本となり、段階的な自立に向けて育成支援が行われている
	内容	クラブでは年間目標を子どもに伝えることで、主体的な行動が促している。目標に対し職員が手本を示すことで、子どもたちは自ら挨拶するなど、友達との関わりを意識的に行うようになっている。目標の内容や成果は保護者にも共有され、年度末には具体的な評価を行うことで、子どもの達成感と自己肯定感の向上につなげている。また、1年生向けの目標を基盤としつつ、2・3年生には年齢に応じて内容を工夫し、子どもたちが自身の成長を実感できるようにしている。子どもたちが、日々の生活の中で目標意識を持ちながら行動できるように環境を整えている。
2	タイトル	日々のミーティングに加え、毎月のロングミーティングやオールスタッフミーティングを重ねながら、職員間の情報共有を密にしている
	内容	クラブでは、毎日、昼過ぎにミーティングを開き、本日の予定等を話し合っている。また、夕方にもミーティングを開き、それまでに起きた出来事の報告や簡単なふりかえりを行っている。両ミーティングとも、子どもの状況報告もしている。さらに、月に1回のロング・ミーティングも開いている。ここでは、年間計画やマニュアル見直しなど、時間をかけて検討すべき議題を取り上げている。以上3つのミーティングには、職種や勤務時間の関係で出席できない職員もいるため、オールスタッフミーティングも開催するなど、職員間の情報共有を密にしている。
3	タイトル	子どもが過ごす環境づくりのために学校に協力してもらい、隣接している多目的室を有効的に利用し、子どもたちの日常生活を充実させている
	内容	隣接する多目的室を活用し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりが丁寧に行われている。学校の協力により、おやつや昼食の時間にはテーブルと椅子を使って落ち着いて過ごすことができている。春休みなど体育館が使えない時期にも、室内プログラムを工夫して充実させている。椅子やテーブルの移動により空間を広げ、ゲームなど動きのある遊びも楽しめるほか、子ども会議の場所としても使用している。また一部のスペースはクールダウンや配慮児の静かな遊びの場としても活用されている。柔軟な環境整備が、子どもたちの日常を豊かに支えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新BOPの仕組みをより多くの保護者に認識してもらうため、保育園や幼稚園などの児童施設との連携がさらに進められることに期待したい
	内容	クラブでは、入会説明会を除くと、保護者らに事業全体を広く紹介する機会が限られているのが現状である。将来のクラブ利用者は現保育園児である可能性が高く、保育園との連携は情報発信の機会として重要だと考えられる。例えば、保育園の保護者会に職員が出向き、クラブについて直接説明することで、初めて利用する家庭の理解を深めることもできる。また、事務局長等が保育園行事に参加することも、クラブの存在を保護者に身近に感じてもらう有効な機会となる。今後は、このような保育園との新たなつながりの構築していくことに期待したい。
2	タイトル	子どもが主体となって企画するイベントなどの実現を目指しており、その進捗が期待される
	内容	クラブでは、日々の遊びや折々の企画やイベント等について、子どもとやり取りの中で意見や要望等を個々に聞き取るよう努めている。こうした要望等は職員ミーティングの場で報告しあい、より子どもが楽しめるよう、企画の見直しや新企画の考案などにつなげている。ただし、現状では職員が主体となっているという点は否めない。クラブとしては、子どもたちが主体的に企画を出し合い、話し合って決定し、準備や実行にも積極的に関わるといった子ども主体の企画やイベントの実現を目指している。こうした取り組みの、今後の進捗が大いに期待される。
3	タイトル	情報発信を通じて、子どもたちの日々の様子や成長の姿を保護者により積極的に伝えていく工夫が期待される
	内容	子どもたちの日々の様子や成長の姿を、より保護者に伝えていく工夫が期待される。たとえば、イベントの準備や当日の写真を掲示した「学童だより」の発行や模造紙にコメントを添えて掲示することで、保護者が子どもと自然に会話を交わすきっかけにもなる。夏の「縁日」では、子どもたちが職員と一緒に企画から準備まで取り組み、全員が店員とお客さんを体験するなど、学童ならではの充実した行事となっている。こうした活動の中で見られる子どもたちの成長の瞬間を、保護者と共有していく取り組みが今後さらに広がることを期待される。